

須磨学園好走り充実

都大路メンバー入りへ
 最終試験と位置付けられ、県大会から全員入れ替わった須磨学園の選手は、本気の強さを示し、2秒差を付ける快勝で、2



学校駅伝競走大会



連覇を遂げた。小刻みなアップダウンが続く川沿いコースで平凡な記録に終わり、アンカー田嶋は「優勝できたのは良かった」と苦笑いしたが、アグンテントや不安をものともしない、地力の高さを感じさせた。

県大会に続き、この日も危なげなかった。1区岡田は中継直前に他校の2区の選手と接触して転倒しても、区間1位で振り切った。けがで7月から2カ月間、走れずに苦しんだ1年生の2区高古が1秒のリードを劣勢に広げ、勝利を呼んだ。「走れたこと自体がうれしか

2連覇のゴールテープを切る須磨学園アンカー田嶋

った」と高喜。チームの充実ぶりに4区区下は「去年よりレベルが上がっている。全国で優勝できよう」と言い切る。

次はいよいよ都大路。岡田は「また駅伝で頂点に立ちたい」と意気込む。県、近畿大会を徐々に勝ち上がったチームにとっ

て、底力を試す絶好の舞台になる。(小林隆宏)